

令和 4 年 6 月 2 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K10486

研究課題名(和文) 文化的価値観の多様性を尊重したケアを目指した保健医療人材育成の教育プログラム開発

研究課題名(英文) Development of an educational program for healthcare human resources for care that respects diversity of cultural values

研究代表者

岡本 美代子 (Okamoto, Miyoko)

順天堂大学・医療看護学部・准教授

研究者番号：30735858

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：在日外国人は、1)常に意思疎通ができない不安がある、2)受診時の手続きに支援が必要、3)医療専門用語の理解が困難、4)信頼関係が構築されると安心、5)日本でのやり方を受容、6)母国と比較した文化の違いを感じる特徴がある。看護職では、1)言語的・非言語的コミュニケーションを創造的に実践、2)地域の情報や資源を活用、3)医療専門用語を相手の理解度に応じて表現、4)相互の信頼関係を促進、5)文化的背景に注目したアセスメントの能力強化が必要である。多文化共生社会が先行している欧米諸国で実践されている、シミュレーション手法や、当事者に寄り添える手法を参考にした教材が効果的と示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本社会の少子化に伴い在留外国人人口が急速に増加し、多文化共生社会を呈しつつある状況がある。多様な文化的価値観を持つ人々の保健医療ニーズと、日々対応する保健医療従事者の対応の現状と、その教育ニーズを明らかにした。すでに多文化共生社会として選考している欧米諸国での議論や経験を踏まえ、日本における多様性を尊重したケアができる保健医療人材の教育の在り方を明確にした。これらは、国内での学術的知見を更に発展させ、保健医療人材の卒然・卒後教育への示唆をもたらすことに貢献する。

研究成果の概要(英文)： According to the study, foreign residents at healthcare facilities in Japan are characterized as 1) feeling anxious about communicating, 2) needing assistance with procedures, 3) having difficulty understanding medical terminology, 4) feeling comfortable when a relationship of trust is established, 5) accepting the Japanese way, and 6) sensing cultural differences. Nursing professionals need to 1) creatively practice verbal and non-verbal communication, 2) utilize local information and resources, 3) express medical terminology according to individual understanding, 4) promote mutual trust; and 5) conduct assessments with attention to cultural context.

In addition, based on discussions about surveys in Western countries (the U.S. and Finland) where multicultural practices are prevalent, it was suggested that teaching materials that incorporate simulation and other educational methods tailored to the feelings of the people involved will be effective.

研究分野：看護学、公衆衛生看護学

キーワード：在日外国人 多文化共生社会 保健医療人材 多様な文化的価値観 多文化教育

1. 研究開始当初の背景

平成 28 年末における在日外国人数は約 240 万人と総人口の約 1.9% (総務省) を占め、その国籍は、主に中国、韓国、フィリピン、ベトナムなどアジア各国の非英語圏からが約 7 割を占め、全 196 か国に渡る。在日外国人数が増加し、国籍が多様化することに比例し、文化的多様性を起因とした在日外国人の健康格差の問題が顕著化しつつある。

このように多文化共生社会となりつつある我が国の現状を鑑みると、多様な文化的価値観を持つ人々を理解し、その多様性を尊重したケアができる保健医療人材の育成は喫緊の課題である。国内の保健医療職の教育において「多様な文化」は、新しく導入されつつある「医学教育モデルコアカリキュラム(平成 28 年改訂)」や「看護学教育モデルコアカリキュラム案(平成 29 年 7 月)」の中で位置付けられている。しかしながら、我が国の現状に照らして、多様な文化的価値観の理解を促す教育や取り組みは十分なされているとは言い難い状況にある。一方、欧米を中心に「カルチュラル・コンピテンス(異文化間能力)」や「カルチュラル・ヒューミリティ(文化的な謙虚さ)」などが学修目標として明確に位置づけられ、具体的な教育プログラムが活発に議論されている。

2. 研究の目的

多様な文化的価値観を持つ人々の保健医療ニーズを明らかにし、その多様性を尊重したケアができる保健医療人材の教育プログラムを開発することで、健康格差の解消を目指すことである。

3. 研究の方法

(1) 在日外国人の保健医療ニーズ及び国内の保健医療職の対応の現状と教育ニーズの明確化

在日外国人の保健医療ニーズの明確化

外国人が多く在住する関東圏内に留学生を除く 3 年以上在住する在日外国人のうち協力の得られた者を対象とした調査を実施した。

日本の保健医療職の教育ニーズの明確化

外国人が多く在住する関東圏内において、ランダムサンプリングで抽出した一次医療施設(診療所)に勤務する経験年数 3 年以上の看護師・助産師を対象とし、郵送法による質問紙調査を実施した。

(2) 海外事例の検討

海外実践事例調査・意見交換：米国・マイアミ大学、フィンランド・The National Institute for Health and Welfare (THL) と協力し、各国の多文化共生への体制や保健医療人材教育の実例を調査した。

4. 研究成果

(1) 在日外国人の保健医療ニーズ及び国内の保健医療職の対応の現状と教育ニーズ明確化 在日外国人を対象とした 2 つの調査

1 つ目は、無記名自記式質問紙調査であり、合計 32 か国、230 名より協力を得て、日本の医療機関への受診状況やその際の困難状況について日本語能力別に明らかにした。分析対象となった 209 名のうち、9 割以上は、日本語の能力レベルに関わらず日本の医療機関への受診経験があった。日本語の能力レベルの低い者の方が、能力レベルの高い者より、受診における困難感が高く、有意差が認められた。医療ニーズでは、日本語の能力レベルに関わらず、“関節・筋の痛み”、“高血圧”、“妊娠・出産”の順で多く報告された。今回の分析対象の 9 割以上は、日本の能力レベルに関わらず日本の医療機関での困難感を生じていた。その困難感の詳細では、“コミュニケーションに関わる問題”、“疾患・治療への説明不足”、“外来受診の手順”の順に多く報告された。分析対象のうち、約 8 割程度で、健康問題を予期した不安があると回答した

ものの、日本語の能力レベルに関わらず日本の保健機関の受診経験があったのは、3 - 4 割程度であった。保健ニーズでは、日本語の能力レベルに関わらず、“高齢者の保健福祉”、“非感染性疾患”、“災害時の保健”の順で多く報告された。日本の能力レベルの低い者の方が、能力レベルの高い者より、受診における困難感が高く、有意差が認められた。その困難感の詳細では、“コミュニケーションに関わる問題”、“サービス利用の手順”の順に多く報告された。

2つ目は、1つ目の調査よりさらに協力を得られた計64名の対象者において、フォーカスグループインタビューを実施し在日外国人が医療機関受診時に経験している特徴を明らかにした。結果、「意思疎通ができない不安を常に持つ特徴」、「受診時の手続き及び受診中に支援を必要とする特徴」、「医療専門用語の理解が困難である特徴」、「信頼関係が構築されると安心して受診できる特徴」、「日本でのやり方を尊重し受容する特徴」、「母国と比較した文化の違いを感じる特徴」の6つの特徴が明らかになった。

保健医療人材への調査

調査準備を整えた後、COVID-19パンデミックの終息が予測できない状況のため対象としていた保健医療人材の社会的な負荷を鑑み、調査規模の縮小と待機の時間を要した。そして協力が得られた、看護師・助産師を対象とした調査を実施した。一次医療を提供する診療所に勤務する3年以上の臨床経験を持つ対象より、129名の看護師（101名を分析対象）と157名の助産師（147名を分析対象）の回答を得た。

主な結果として、両者とも約8割が在日外国人への対応経験があるにも関わらず、多様な文化や対応についての教育機会は1割程度と非常に限られており、両者の間に統計学的な差はみられなかった。英語によるコミュニケーションのレベルは、助産師のほうが看護師よりも高く、有意差がみられた。在日外国人に対応する際の態度において、助産師は「文化的な違いの認識」「文化的違いへの柔軟な対応」「継続学習への意欲」において、有意にスコアが高く、より積極的に対応していることが明らかとなった。

保健医療人材への教育ニーズ

今回の調査対象であった看護職では、文化的価値観の多様性を尊重するための教育機会が不足し、臨床業務の経験をもとに知識の付加や対応方法に工夫をしていることが明らかになった。対処方法としては、多様なコミュニケーション手法活用の強化、医療用語に平易な説明を付加することを強化、卒前・卒後教育における多様な文化的背景をもつ人々に関する教育（culturally congruent care やcultural humilityを取り込んだ）の必要性について議論をした。加えて、日本語の能力が低い在日外国人の中には、教育レベルの低さや特定の職業に従事している者が含まれることも明らかになった。現在では、日本語もしくは英語等の言語的コミュニケーションができないと、対象者と保健医療人材との双方でのコミュニケーションに関連する問題が起きやすく、配慮を要するグループへの対応が困難な現状も明らかになった。特に、産業保健や予防的アプローチ等の公衆衛生的なサービスでは、顕著な様子が伺えた。

そして、基礎教育で基盤を作り、継続教育で発展が求められる看護教育に対し、具体的に次の5つの能力強化を要することが示唆された。つまり、「言語的・非言語的コミュニケーションを創造的に実践する能力」、「地域の情報や資源を活用する

能力」、「医療専門用語を相手の理解度に応じて表現できる能力」、「相互の信頼関係を促進する能力」、「文化的背景に注目したアセスメントの能力」である。

さらに、教育プログラムの開発においては、看護師、助産師について共通して強化が必要な内容もあるが、職種間での教育ニーズの違いも存在することから、職種特有の内容も必要であることが示唆された。この課題については、2022年度に新たに採択された科研にて引き継ぎ検討する予定である。

(2) 海外実践事例の検討

米国での実践事例調査

マイアミ大学看護学部を訪問し、多様な文化的価値観を持つ人々に対するケアや看護教育の実際におけるヒアリング調査を実施した。米国南部にあるフロリダ州における特徴として、ヒスパニック系移民を始めとした多様な文化的背景を持つ人々が多く在住する。その長い歴史のなかで、大学にも多様な文化的背景を持つ教員の存在がある。また、大学病院では、日本語を含む少数派の言語を持つ患者への医療通訳体制や相談窓口が整っていた。また、多言語での子育てには、言語療法士といった専門家によりアドバイスを受けられる仕組みも整っているとのことであった。

これらを踏まえ、研究協力者と協働し、情報の整理を行い複数の学会での発表を通して議論を発展させた。文化としての捉え方にジェンダー、宗教等への多様性にも広く対応した看護教育体制や、その方法論としてのシミュレーション教育が取り入れられており、日本への適用が期待できる。

フィンランドでの実践事例調査

The National Institute for Health and Welfare (THL)とJANK大学を訪問し、多文化共生事業に関わる専門家や研究者へヒアリング調査を実施した。保健医療人材育成やその多文化共生社会の在り方について検討を深められた。日本同様に、少子高齢化の問題を抱えているフィンランドでは、近年、多重国籍や難民の移住を認めるなど移民政策を積極的に進め、移民人口が約1.5%（2000年）から約8%（2019年）へ急増している。移民の出身国は、多い順にイラク、ソマリア、アフガニスタン、シリアと続き、多種多様な文化的背景を持つ移民に対応している。その際に、有効な人材育成の方法として、e-learningが有効とのことであった。共有された動画の内容は、フィンランド語（英語キャプチャー）ではあったが、実話をもとにしたドキュメンタリーであり、学習者の感情の琴線に触れるような流れであった。例えば、大家族で暮らす文化を持つアフリカ系難民が、雪降るフィンランドに到着して一人で生活を始める過程等が表現されていた。当事者の実体験が語られることで、学習者も疑似体験し、これからの異国で起こる様々な障壁に支援者が寄り添えるような手法を取っていた。当事者の気持ちに寄り添える教材への工夫は参考になる。

(3) 成果の社会への早期還元

以上の成果等、これまで得られた知見を整理し、国内外での学会での発表、国内外の研究者との議論を重ねた。また、研究目的や意義に挙げたように、成果を実社会の健康格差の早期解消に向け、在日外国人を対象にした健康相談会の開催、市民講座や学習会への積極的な参加、情報提供を行っている。そうして得られた当事者である在日外国人や市民団体、市民との議論を基に、より現実に即した保健医療人材の教育プログラムへの示唆について国内

外の学術雑誌へ複数の論文の投稿を行った。国際学会の一つである、The Transcultural Nursing Society Conference 2020 においては、研究協力者との共著にて、the Best Poster Prize を獲得した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 6件/うちオープンアクセス 4件）

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 菱谷 怜、岡本美代子、Yui Matsuda、野崎真奈美 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 在日外国人のコミュニケーション能力別にみた医療機関受診時の経験 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 看護人間工学会誌 | 6. 最初と最後の頁 pp. 37-48 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 Manami Nozaki, Kazumi Watanabe, Miyoko Okamoto, and Yui Matsuda | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 The Gap Between Japanese Medical Professionals and Foreign Patients | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Advances in Human Factors and Ergonomics in Healthcare and Medical Devices | 6. 最初と最後の頁 pp. 17-22 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-3-030-50838-8_3 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 Okamoto M., Taniguchi N., Nozaki M., Matsuda Y., Saito N. | 4. 巻 779 |
| 2. 論文標題 Developing Culturally Sensitive Care in Japan: Comparison of Competence in in Healthcare and Education | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Advances in intelligent System and Computing book series, Springer International Publishing AG | 6. 最初と最後の頁 pp. 259-266 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-3-319-94373-2_29 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 Taniguchi N., Okamoto M., Matsuda Y., Nozaki M | 4. 巻 779 |
| 2. 論文標題 Improving Japanese Nursing Education by Understanding "Intercultural Competence" | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Advances in intelligent System and Computing book series, Springer International Publishing AG | 6. 最初と最後の頁 pp. 274-282 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-3-319-94373-2_31 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 Manami N., Taniguchi N., Okamoto M., Matsuda Y., Mitsuya R | 4. 巻 783 |
| 2. 論文標題 Characteristics of problem consciousness of Indonesian returnee nurses who experienced intercultural exchange in the foreign countries | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Advances in intelligent System and Computing book series Springer International Publishing AG | 6. 最初と最後の頁 pp. 597-602 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-319-94709-9_58 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|--------------------------|
| 1. 著者名 岡本美代子, Yui Matsuda, Cynthia L. Foronda | 4. 巻 Volume39, Issue1 |
| 2. 論文標題 Healthcare needs and experiences of foreign residents in Japan by language fluency | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Public Health Nursing | 6. 最初と最後の頁 pp.103-115 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/phn.13026 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

[学会発表] 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 5件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 Miyoko Okamoto, Yui Matsuda, Manami Nozaki |
| 2. 発表標題 Examining Healthcare Needs of Foreign Residents Living in Japan According to Their Japanese Language Fluency |
| 3. 学会等名 Sigma 32nd International Nursing Research Congress (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Megumi Morikone, Miyoko Okamoto, Yui Matsuda |
| 2. 発表標題 Intercultural communication in Japanese healthcare settings: Foreign nationals' experience and solutions to improve provider-patient communication |
| 3. 学会等名 the Transcultural Nursing Society Conference in Kobe 2020 (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Miyoko Okamoto, Yui Matsuda, Manami Nozaki |
| 2. 発表標題 Clarifying the Healthcare Needs of People with Diverse Backgrounds in Japan |
| 3. 学会等名 the Transcultural Nursing Society Conference in Kobe 2020 (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Mao Iwadate, Miyoko Okamoto |
| 2. 発表標題 EXPERIENCES OF FOREIGN RESIDENTS FROM ASIAN COUNTRIES AT MEDICAL FACILITIES IN JAPAN-FROM THE VIEWPOINT OF PROMOTING MULTICULTURAL UNDERSTANDING FOR NURSING STUDENTS- |
| 3. 学会等名 the Transcultural Nursing Society Conference in Kobe 2020 (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Miyoko Okamoto, Yui Matsuda, Naoko Saito, Manami Nozaki |
| 2. 発表標題 Development of an Educational Program for Healthcare Professionals Aiming at the Care that Respects Diversity of Cultural Values ~Clarifying the Healthcare Needs of People with Diverse Cultural Backgrounds in Japan~ |
| 3. 学会等名 2019 MMIRA Asia Regional Conference / 5th JSMMR2019 Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 齋藤尚子, 加藤星花, 岡本美代子 |
| 2. 発表標題 行政保健師が在日外国人への健康支援を行う上での課題・困難-文献検討を通して- |
| 3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会 |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Yui Matsuda Ph.D.
<https://miami.pure.elsevier.com/en/persons/yui-matsuda/publications/>

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--------------------------------------|-----------|
| 研究分担者 | 谷口 紀仁 (Taniguchi Norihito) (50811824) | 名古屋大学・国際機構(教育)・講師 (13901) | 2018-2019 |

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 松田 結 (Matsuda Yui) | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | |
|---------|---|--|--|
| フィンランド | National Institute for Health & Welfare | | |
| 米国 | University of Miami | | |